

3年道德通信 第26号

第26回『ぼくのお話 あなたの物語』

『人間は誰でもたくさんの「物語」をもっています。親の名前、生まれた場所、兄弟のこと…。それらの「物語」の中には人種や肌の色も含まれます。しかし肌の色や人種を知っただけで「あなたの物語なら、わかってるよ。」と言えるのでしょうか。

人種や肌の色は、あなたやぼくのほんの一部。誰にでもたくさんの物語があります。』

黒人作家ジュリアス・レスターの人種問題についてのメッセージを通して、差別や偏見のない社会を築くために大切な心について考えました。



みんなの意見

偏見を持たず、差別をせずに人と関わっていくために大切なこと。

- ・互いの個性を尊重し合うことが大切。
- ・いろいろな人がいて、いろんな考えの人がいるということを理解して自分の考えを押しつけないようにすればいいと思う。
- ・他国の文化や歴史を学んでわかり合えばいいと思う。
- ・自分が否定される側だとどんな気持ちか、考えてみる。
- ・外見で決めずに、その人をよく知るのが大切だと思った。
- ・旅行に行っても黒人の人は良い人で、差別する理由がわかりません。英会話の前の先生も黒人だったし、自ら関わっていくことが大切だと思いました。



「違いの違い」で思ったこと

- ・班の人と考えはほぼ同じだった。何が正解かはわからなかった。
- ・自分の意見と他の人の意見が全然違って、なかなかまとまらなかった。差別がなくならないのはこういう意見の食い違いがあるからなのかなと思った。
- ・結構いろいろ考えさせられた。



**差別や偏見のない社会にするためには、
どのような心を大切にするとよいだろう。**